

講演や体験談、パネルディスカッションを開催

関東地区就職懇談会

6月14日(土)、浦安キャンパス教育後援会による関東地区就職懇談会が学内で開催され、保護者や学生ら約260人が集まった。

まず仲村務教育後援会長から「今年から3年だけでなく1・2年の保護者も対象としました。教育後援会では、一人でも多くの学生が希望する職種に就けるよう支援していきたい」とあいさつ。

続いて小泉允園副学長から、大学がいかに実学的な学問に向かつて歩んできたかの歴史を紹介したうえで、

「学生生活の目的意識が希薄になりつつあり、何でも『ま、いつか』ですべてを先送りする傾向がある。家庭でも『ま、いつか』を禁句にしていた方がいい」と語った。

次いで下田直樹キャリアサポートセンター長から、大学のこれまでの支援の取り組みや現在のサポート体制が紹介された(左頁上欄)。

講演では、(株)リアセック代表取締役の近藤賢氏が「父母のための就職ガイダンス」と題し、参加者と意見を交わしながら就職の現状



約260人が熱心に聞き入った

動

現在の

ここ数年、ますます早期化している就職活動。3年次の保護者はもちろん、1～2年次にとっても意識をしておいて「早すぎる」ということはない。

今回は、6月に行われた関東地区就職懇談会の内容を中心にご紹介。



「好きな音楽をしたいのでフリーターで3年はやらせてほしい」

最近よく音楽やダンスなどでこういった質問が多いですね。ポイントが、学生は就職したら音楽やダンスができないと思込んでいる場合が多いこと。どうしても「どちらか」と考えがち。就職は夢をあきらめることにはなりません。

(株)リアセック代表取締役 近藤 賢

父母のための就職ガイダンス

「好きな音楽をしたいのでフリーターで3年はやらせてほしい」

最近よく音楽やダンスなどでこういった質問が多いですね。ポイントが、学生は就職したら音楽やダンスができないと思込んでいる場合が多いこと。どうしても「どちらか」と考えがち。就職は夢をあきらめることにはなりません。

「やりたい仕事は最初は派遣社員からなので、正社員でない就職をしたい」

今、紹介予定派遣という制度があります。正社員として雇用することを前提に、ある一定の期間派遣するというシステムです。やってみて双方問題がなければ正社員として雇用されます。派遣から正社員になっっている確率がどれくらいあるのか調べるといいと思います。そもそも、派遣社員と正社員の違いを理解しているのかもポイントです。

「アルバイト先から、卒業したらそのまま契約社員にならないかと言われた」

まずは契約社員と正社員の違いを理解しているかどうかですね。契約社員は、有期雇用。契約社員と正社員で仕事の違いがあるのか、契約が満了したあとにどうなるのかも確かめる必要がありますね。

「やりたいことがないので留学をして自分を探したい」

ポイントが、留学をすればやりたいことが見つかるわけではない、目的は学ぶことだということです。何のために留学するのかをはっきりしていないと、その後の就職も難しい。

「若いからこそ、情報が偏っています。広い視点で、わからないことをまずは調べることです」

「さままな価値観があります。重要なことは本人が納得して自ら意思決定することです」

「一時期に比べて確実にチャンスは拡大しているが、1000人以上の大手、金融、情報サービス業は未だ就職難」

「大手や人気業種に偏らない、幅広い就職活動が必要」

最初はKY... 回数を重ねると慣れてくる

1期卒業生 武藤俊一



経済学部を平成4年に卒業し、NTTグループの金融関係の会社で、営業として16年働いています。「つづれないだろうな」という安易な気持ちで選びました(笑)。今は結婚し、子どももいます。

皆さんは当然、安心な企業、体力がある企業に就職したいとお考えだと思います。さらに、働き甲斐のある企業に就職することをオススメします。最初は大変でも、何年か頑張れば楽ができるようになります。自分の学生時代を思い出してみると、就職についてはあまり何も考えていませんでした。友だちが就職活動をして初めてお尻に火がつかしました。皆さんのお子さんも、きっかけ作りが必要かと思えます。

最初はスーツも似合わず、面接がまったく受かりません。10社目くらいで慣れてきて、受かり始めました。最初はKY(空気が読めない)でしたが、回数を重ね、他大学の学生を見ていくうちに読めるようになってきます。初めて内定をいただいたときには本当に嬉しかったですね。

私も、これから明海の知名度を上げるためにも頑張っていきたいと思えます。皆さんのお子さんにもぜひ社会で活躍いただきたいですね。

私の就職体験を語る

講演内容を要約



「キラキラしたものを引き出してほしい

7期卒業生 平松健太郎

不動産学部を卒業し、平成10年にコンビニ関係の小さな会社に就職しました。最初は電話ばかりでつまらない日々。小さい会社だったのでモチベーションが低かったです(笑)。その後、会社の規模も徐々に大きくなり、今は課長として働いています。

就職活動では、「いかに目立つか」しか考えていませんでした。頼まれていないレポートを送りつけたりしました。有名大学と違い、当時の私は「チャレンジャー」として就職したと思います。

就職活動は親からの影響が大きく、父親が「おまえがいくつとき、どうなる？」とお前の付き合っている彼女はどうか？と具体的な話に落とし込んでくれたことで、「どうして働く必要があるのか」を初めて認識させられました。正直キツく、人生で初めての試練でした。明海大は、名前の上で就職活動においては確実にマイナスタート。それは知っておくべきです。

今は、仕事を求めるのかを考え、個人をブランド化する時代。明海にはやさしい子、内に秘めている子が多いと思いますが、もっと「キラキラしたものを引き出してあげる必要がある。私にとってはそれが親だったのだと思います。

まとめ

「次は学生さんたちの就職活動について紹介します。全体では、6月から9月ぐらいにガイダンス、10月ぐらいからスタートします。インターンシップ(企業に1週間や数日、就職体験をする制度)は増えてきています。就活の資料は就職情報誌会社から採用情報を送ってもらいます。エントリーシートは12月ぐらいから、冬にも